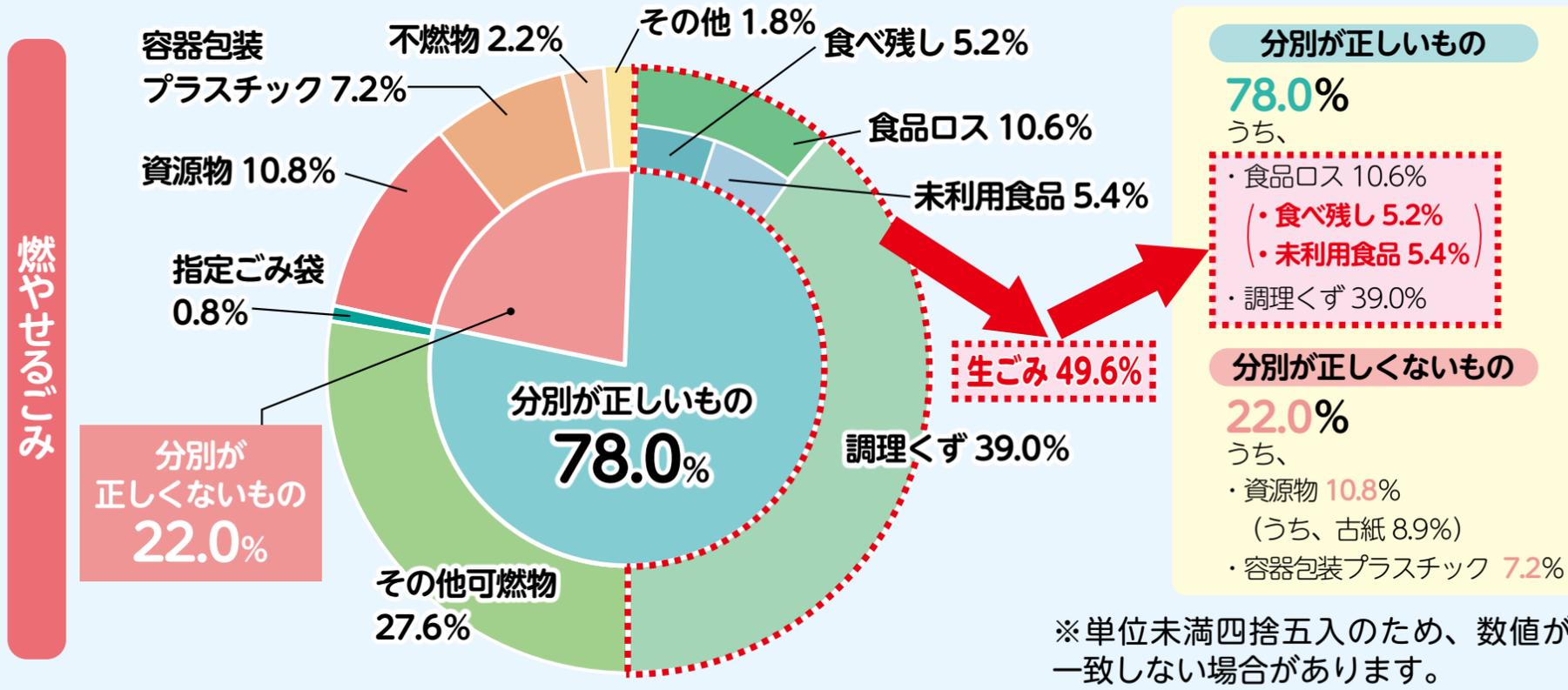


# ごみの組成分析調査を行いました

調布市では毎年、家庭から排出される燃やせるごみ・燃やせないごみ・容器包装プラスチックの品目別の割合を分析し、正しい分別の割合や資源物の割合、食品ロスの排出状況などの実態を把握することで、今後のごみ減量・リサイクル施策の基礎資料としています。今回は、発生するごみの約8割を占める**燃やせるごみ**の中身について見てみましょう！



今回の調査により、市内の家庭から出る燃やせるごみの約5割（14,000トン※）が「**生ごみ**」という結果になりました。この「**生ごみ**」を減らすことは、ごみ処理費用の負担が軽減されるとともに、効率的にごみを燃やせるため、焼却炉や最終処分場の長寿命化、温室効果ガス削減による環境負荷の低減にもつながる非常に大切なことなんです。

※令和3年度実績から推計

## 生ごみを減らすには？

### 生ごみの減量方法その①

#### 食品を食べきれぬ分だけ買う、賞味期限・消費期限を把握する

市内の家庭から約**3,000トン**※の食品ロス（まだ食べられるのに捨てられてしまった食べ物）が発生しています。食品の購入時は食べ切れる分だけを買って、食品の賞味期限や消費期限を適切に把握し、食品ロスの削減に取り組みましょう。

※令和3年度実績から推計

● **消費期限**  
(安全に食べられる期限)

#### 消費期限



● **賞味期限**  
(おいしく食べることができる期限)

#### 賞味期限



### 生ごみの減量方法その②

#### 生ごみの水切りを徹底する

まずは生ごみを「濡らさない」ことが大切ですが、濡れてしまった生ごみでも捨てる前に、ギュッとひと絞りすることで**約10%程度**の水分を減らすことができます。



直接接触することに抵抗がある方は、写真の水切り器や不要になったCDを活用するほか、より大きな減量効果のある生ごみ処理機（4ページ参照）の活用をご検討ください。

### 生ごみの減量方法その③ 生ごみを堆肥にする

家庭から出る調理くずなどの生ごみを堆肥化（リサイクル）することで、ごみを減量しつつ、家庭菜園などの肥料として活かすことができます。また、コンポストや専用バッグ、生ごみ処理機を活用することで、簡単に堆肥化することもできます。（購入時助成制度については4ページ参照）



堆肥化した生ごみ



水切り器（左）とCD（右）の活用による水切り